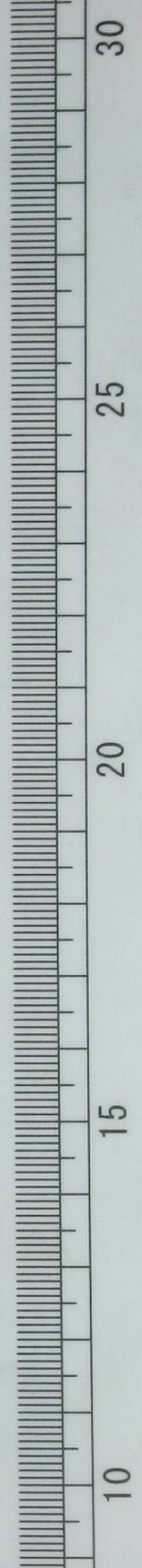


藤田久次郎録  
鹿見島戦争記  
初編



篠田仙果編

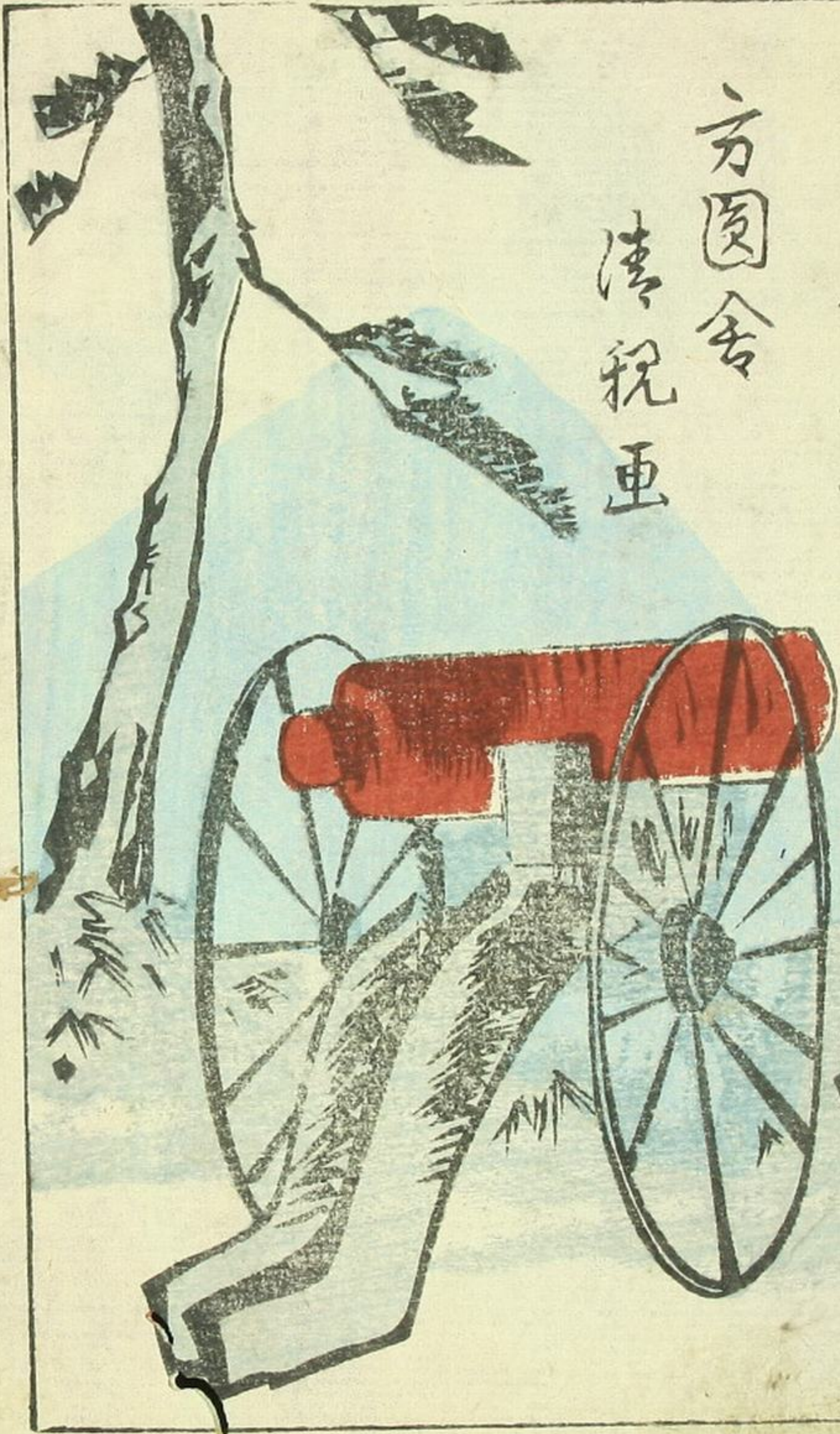
方圓舎

法祝車

考世書挿



價三匁



春暖睡気と催その夕アつらく  
 往年を思ひ出さば  
 先師柳亭種彦翁より笠亭の号を譲り  
 聊々筆を耕して牌官者流の員に入れと書  
 籍さへ持ぬ水呑百姓されば自己と耻つし  
 筆と絶しを數あるは昨日今日とおもひ  
 十有余年の光陰を過たり然るも  
 近來寸暇を得られを拙るも筆を採り  
 初めに僥倖  
 みる看客の愛顧を受し書もありとて書籍

向丸の當世堂が需め、應じて霞兒島事  
 件と著し、わきまゆ、一昼夜の間み成れ、校正  
 届、うべ訛傳謬説排纂、倉漏幾干もあふ  
 辱もあられ、諸君叱言と仁恕、何れと云

明治十年三月

笠真主又

篠田仙果



霞兒島戦争記初編

私学校の生徒

武を推す

水火の注、何れも欠くべからず  
 善悪の生、情をばりて  
 あつたは、武を兼備の  
 極、難い、成されば、秘、閑、多、あ、れ、と  
 及、ま、れ、ば、喜、ぶ、又、此、一、謹、生、  
 ま、ん、ば、あ、ん、ん、ん、ん、ん、ん、  
 明治十年一月  
 下、旬、麻、也、清  
 終、小、果、佳  
 起、是、り、其、の、原、因、と、

一、た、が  
 なる、小  
 一、招、一、文、の  
 正、小、果、佳、の



赤龍江軍糧積込



相も私學校の生徒らが前業よ  
あーんの業あるよりその筋一報  
せしる麻兒海味下し没き  
陸軍省造船所より引後きんと  
送茶とのそ代化筋一引後きんと

陸軍士友小令と下し之の  
郵便船航未航航小令の紐せ  
出帆さ進去る一月二十日因港へ  
送せしる三十一日因天  
歩小島家  
麻兒海味の  
浦つら死後の町  
る陸軍省造船所の  
庫とひきき送茶九一子運る車を  
運送さし赤龍丸つら送る  
ある小生信ホはとより



のそらばこれとら  
ぐととら子とら  
あしとらとら  
もあしとらとら  
二月

一日も残らず強業  
お五百圓イサ村牛あて

生徒暴小彈藥集

先の終よりほまきけ  
生徒大畧四五十人  
大子とひらげ  
速く止り大あて  
浮業何処へともあ  
速く小銃々お中  
才へ度とて川たあ  
衣人穿る士いもい



〇まて  
あしぬ  
見勝  
〇まて  
つも破の

酒の時代と過おあ  
ふぬ小宜くるま  
依と強の服を怒ら  
暴勢一方向ふね  
懼き強業らち持  
らぬ目と目え合  
強業の匣と為持  
掲げ向腹の壮年  
下強丸落めして  
笑ふも大暴ひ去  
未補丸のり根一  
これと強強まも



可貴の... 流出する... 但し... 向ら...  
 去る... 後... 入る... 運送...  
 及中... 砲... 砲...  
 又港内... 砲... 砲...  
 軍... 砲...



十... 数... 十... 十...  
 十... 十... 十...

遠る... 砲... 砲...  
 付... 砲... 砲...  
 付... 砲... 砲...  
 付... 砲... 砲...

生徒等軍議評定

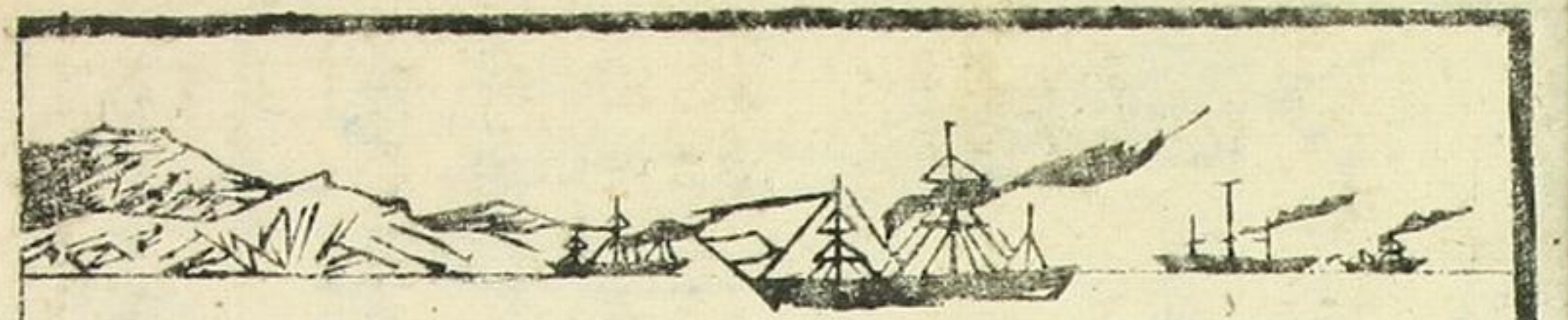
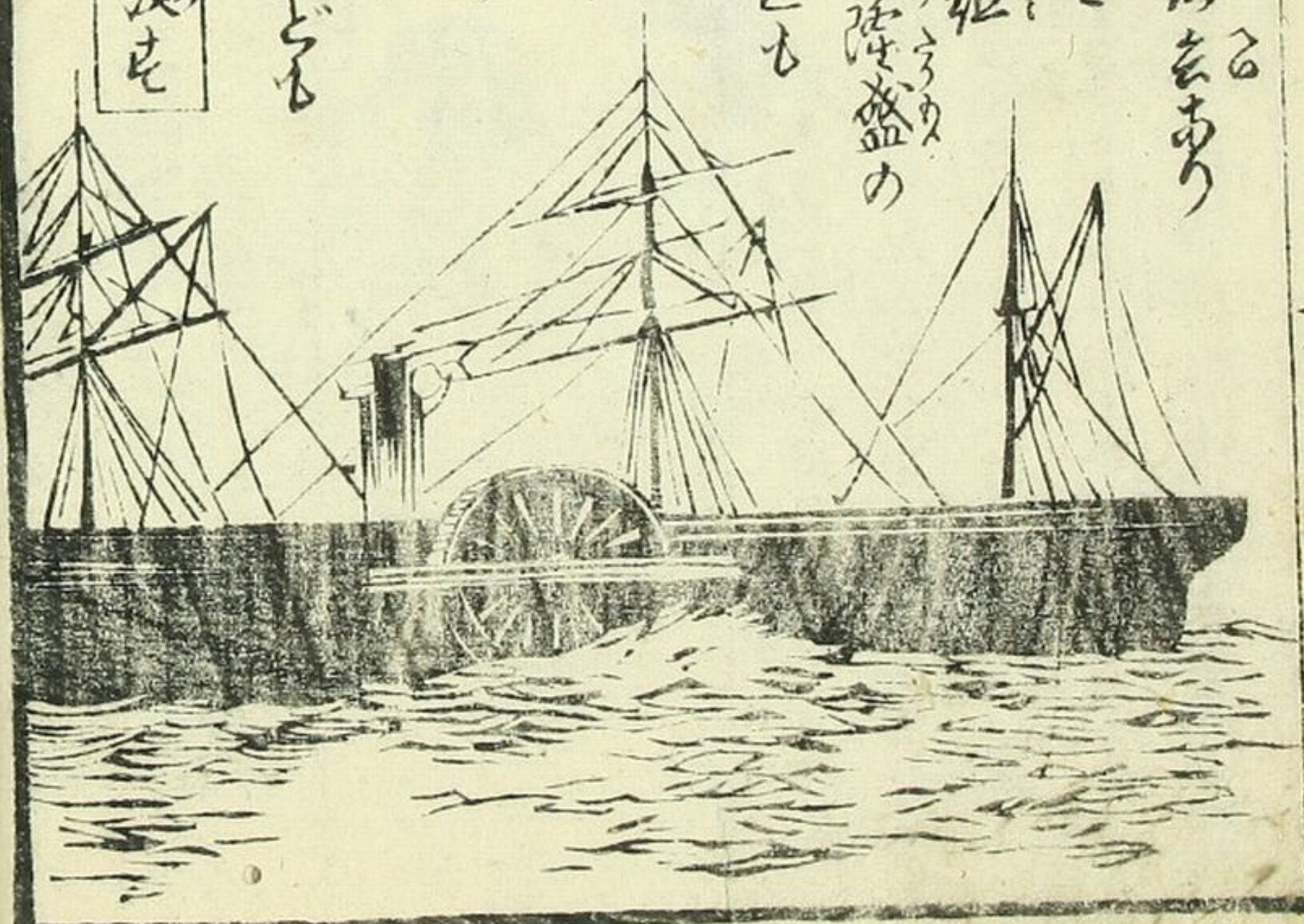


日... 日... 日...  
 日... 日... 日...

江戸日記

人教と多く集めり同謀の輩あり  
 各隊とせしめしり高野氏の並隊と  
 綿虎隊とせし人相神幻の組  
 之を人となれと組懸隊とよび  
 血氣の若くはめて四葉の世  
 といひて若くはめて四葉の世  
 救らむせぬ猛者の多かりり  
 〇私を救生徳といふ若くはめて四葉の世

電報の通世  
 官の汽船出帆を



〇久松見傳近條飛舟の儀  
 仁礼陸軍大佐の孟美艦風船と  
 指揮ありて出帆しされ又修也少致  
 祝神足一第大發云龍川相大發云龍川内勢  
 七百五十人と率ひ石川中教云祝居川内勢  
 大虫死友等三妻の金川丸へ船出せしめられ  
 大久保内勢や中條隊友柳原隊友等陸軍中  
 大出陣軍中なるも不意隊若干とも云云丸も出帆  
 あり後着板垣大佐の三良なるも四條中隊知事細川  
 濃久忠兵衛の四知事山内若木四藤士族松橋と  
 して出帆せし近湯長徳彦藤橋長岡歩雲徳若  
 とも教大隊分知しありぬ〇再び祝生徳在八百八



暴徒要害之地と固む



此の地と岩を固めて  
 要害の地と爲す  
 熊手橋長橋下のり  
 玉入りて許とのり  
 伏線の若の通り  
 又海岸あり  
 外に拘獲とあり  
 築立あり  
 の準備とあり  
 林内勢少捕り  
 大分線巡廻中  
 風をきくと  
 後隊の  
 橋小玉られ河村海軍大捕も流船も

丸小宗組林戸を  
 小生佐と脱解せし  
 世小生佐の  
 張匠はとく  
 とも密しられ  
 甘くは備後尾  
 〇つらく  
 小麻見  
 中合せ  
 日向の  
 の士族  
 士族と

清小一味はしぬ依之生佳らる勢ひ蓋  
 さうんとまり夜何なる流の上とのり  
 地小ある深業を製造

雨をてえ地の  
 深丸目く之  
 子發知るる所の  
 等械あれは工歩と度ひ  
 これと製しぬ樹は暴徒ら罵り  
 なるは世古をば秀長は當玉の地  
 の程と知ふんと取如上人と問若と尋う縁之共宗一派の玉内小入さしと  
 瘡慮以末去宗の誠をらがれり玉入りぬこれ全く問牒者さるん生  
 捕やんとのみまふむうくと押出ぬ



西郷隆盛謀略をあらわす

初編終

明治十年十二月二日

同人 藤田入次郎

出版人 杉浦朝次郎

藤田久次郎録  
鹿兒島戰爭記  
二編



鹿兒島

戦争記

三巻五巻

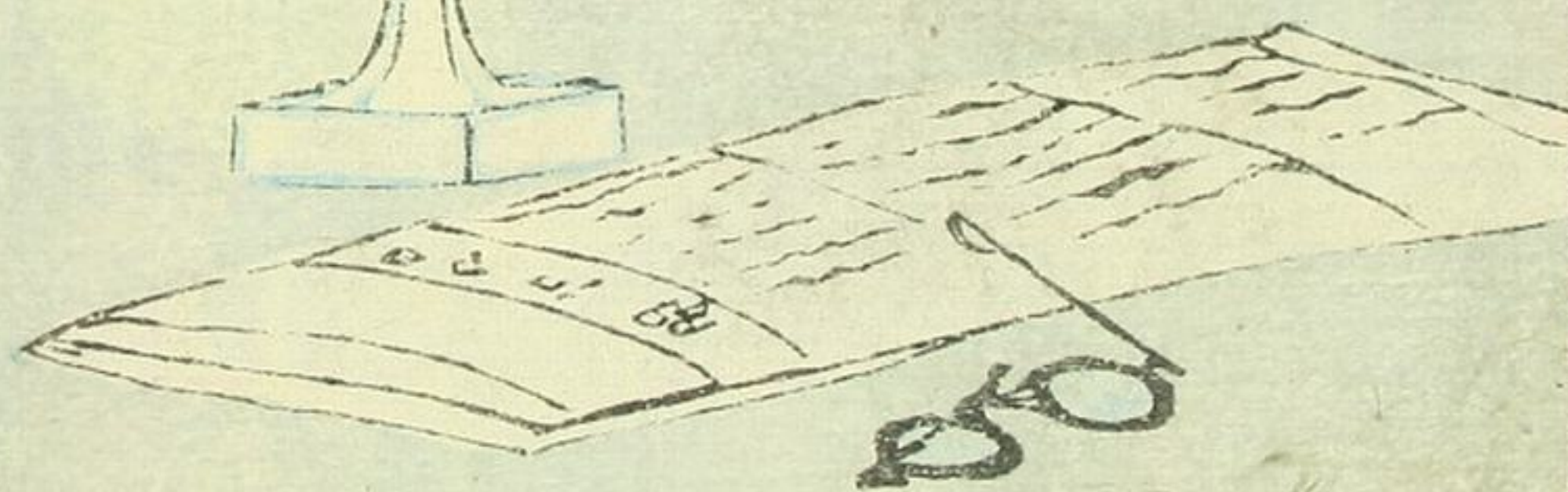
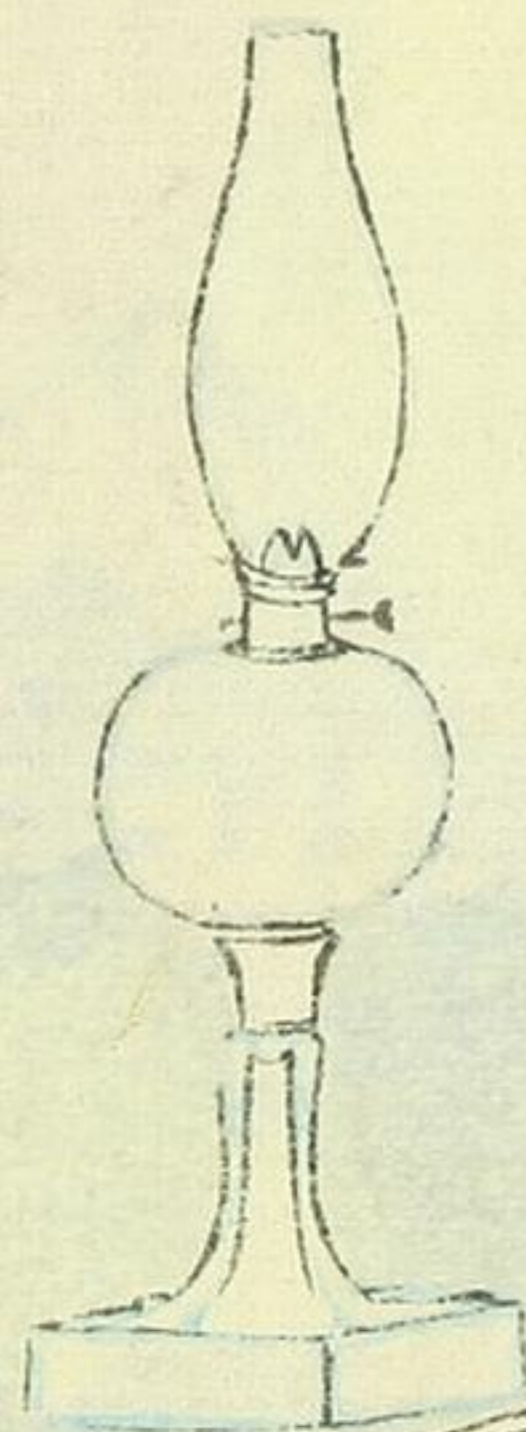
第二編

竹五郎

仙果編

方圓舎

清祝画



鹿兒島戦争記二編

東京

篠田仙果編

須臾未同の人とさすふ各必とも小教あり律儒佛又  
天皇を敬ふを教へを美しあまるといふも若く勤め類と懲り  
徳を積家の一筋のまじりその教へふかきなり此をうり  
まじり同の害もまじりと海一をてふ

文明の文化

の玉も

宗教あり

説教

起り  
教年激戦る世り  
かそあつふ追あふ以相も鹿兒島

鹿兒島



学校生徒は、いよいよ、  
 本邦に如く、  
 のごころ、  
 あり、  
 億九六七十名、  
 あゝの、  
 坊主ら、  
 林の、  
 生、  
 と、  
 地獄の、



けうけい、  
 愚民ども、  
 憎う、  
 かと、  
 若令、  
 と、  
 時、  
 小、  
 暴、  
 一、  
 暴徒、



暴徒

暴徒亦教場へ乱入



琉球港と出 暴徒太平丸漕寄る

帆返同日麻兜島  
港内へ船と投せしるもあふび  
津の方さふとさく物騒しと

小船中の人々もいび

くふおしよ新

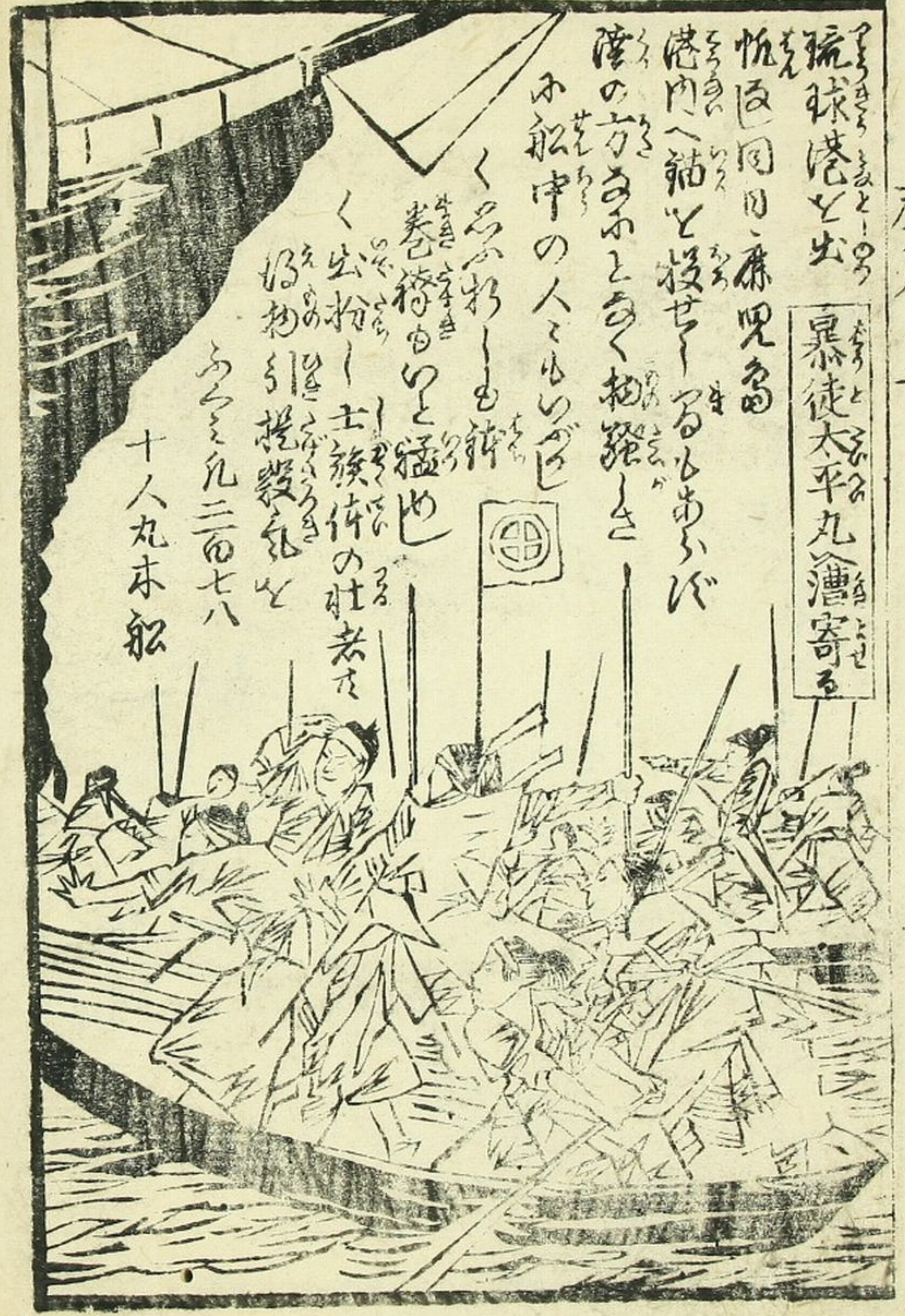
巻物ゆいと猛り

く出物し士族体の壯者

好物引提殺れと

あつと九二七七八

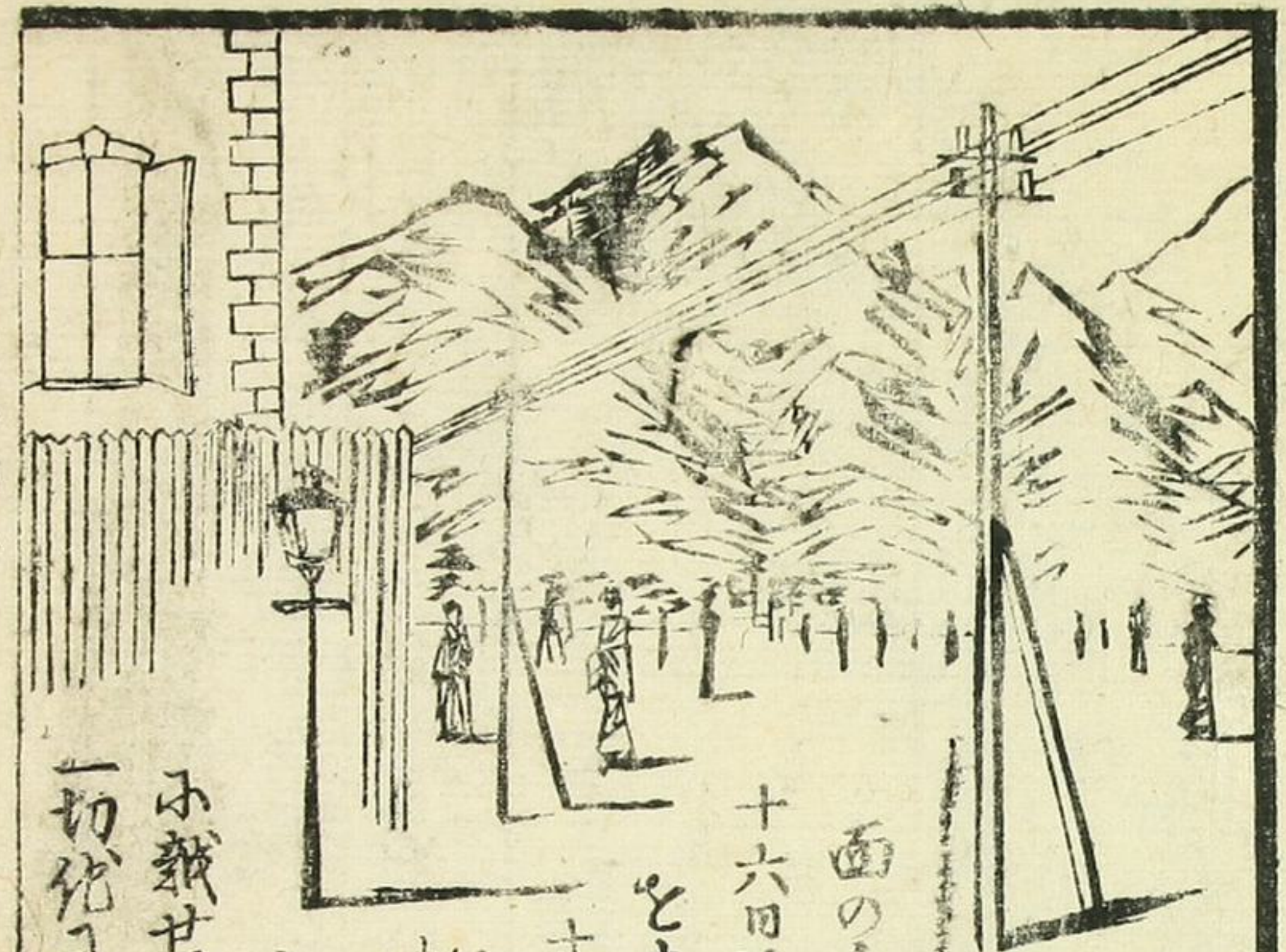
十人丸本船



子船ホを  
赤が玉に  
二死各く  
階子とさちそ  
をふみの

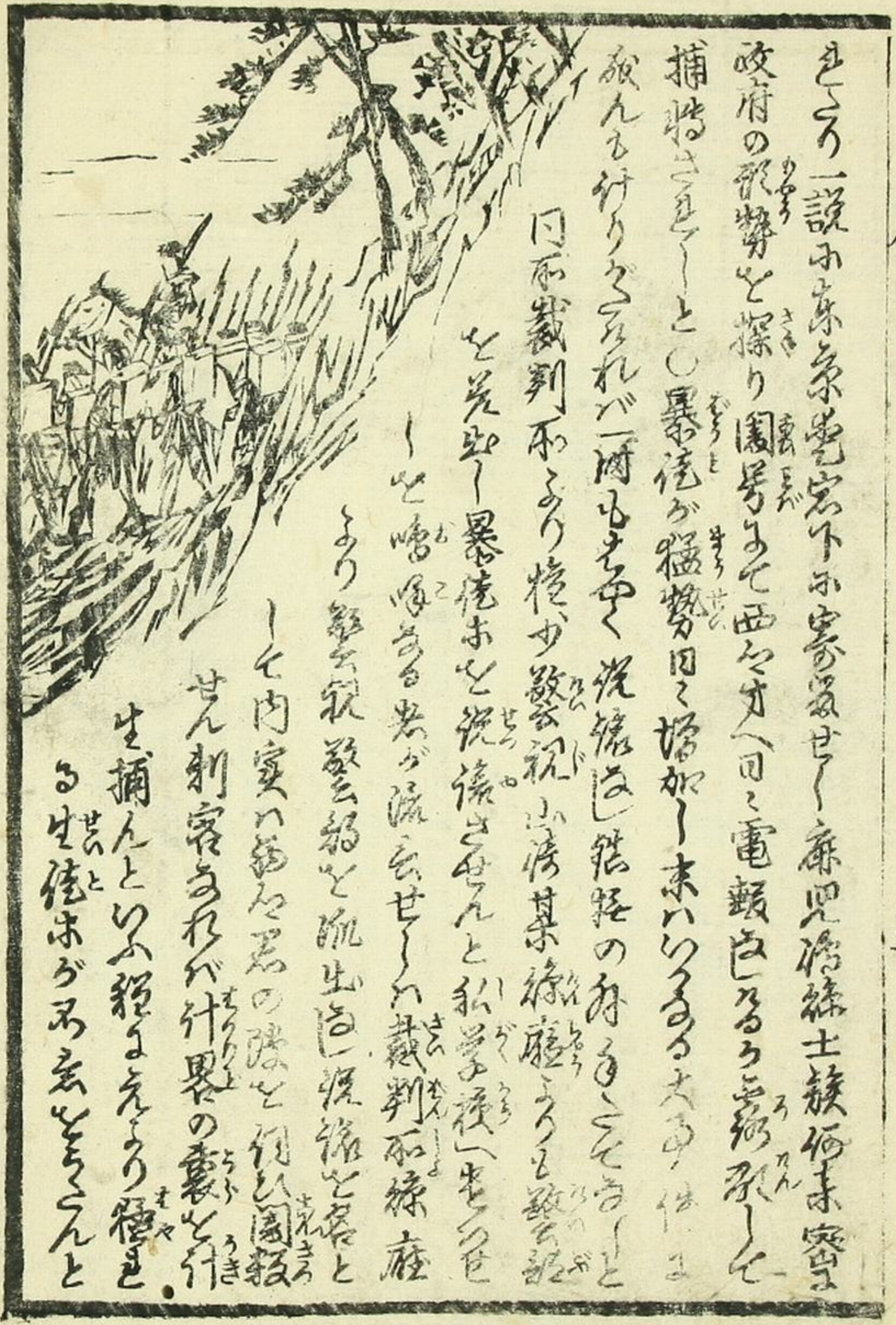
各縣の電報日々數千

甲板上に実主ありの船が八方へ来ることをせりやありてや  
 見合をもちし河津の船長は陳末世に人ともあり  
 ありしは二ハ七の如何なる曲りぞと何と出ずともは暴徒の内  
 こそある人を見知りたる者ありは未だ未だをりてを子細とて  
 せざるはれは友船との事件起りしに廻りて船入港のにはた  
 政府より討ちの船と人柄を察せりんため船中に入る  
 以分あり去はば船中港へ入りて敵やと  
 とあるまじして二十人ありと船中へ入りては  
 了及に後暴徒の討ちりてを平九



以船長英風人何未亦上陸あり  
 多と中戦しと勝つとつと船中  
 相船係系は生余力暴徒ら對  
 面の上系船切又答をたとる一とを  
 十六日係令大心氏よりして政府一の面云  
 と本報未亦拒しとれはありと  
 十八日麻里港と出航はを  
 船中一と港せしとるの  
 上申せりととるは長船と  
 して各線より發する電報  
 小報せしとるは拒し何れも合  
 一切はとるは拒し且報ハ





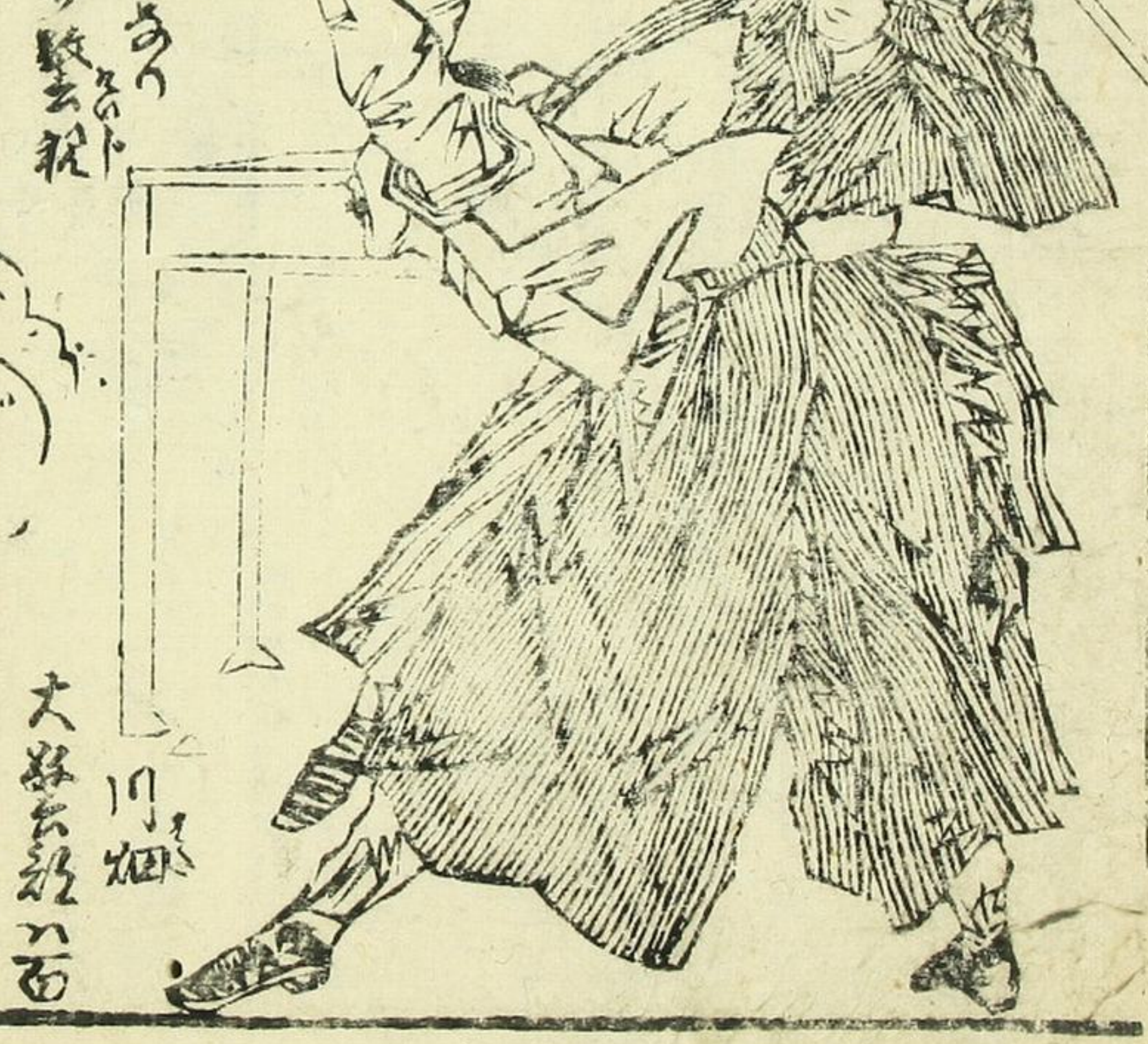
是より一説ありて系宗堂下不家受せし麻見清孫士族何未密  
 政府の飛勢と探り園号して西の方へ可く電報に及るる病氣一七  
 捕縛せしと○暴徒が猛勢日々増加し未だのする大なる供は  
 敵んもけりたされバ一河もを争く流儀はし能程の存もくを言ふと  
 曰ふ裁判不より格少数發祝山清某待應よりと致る能  
 と是如く暴徒亦と流儀をせんと私學校へせしを  
 一と噂の噂ある者か流儀をせしは裁判不流儀  
 より暴徒發祝と流儀はし能程の存もくを言ふと  
 一と内室の密々思の隙を以て園報  
 せん刺客されバ什畧の襲を付  
 生捕んとし公報よえより得と  
 生徒未が不念とせん



非常の備ふ巡査出張す

付ともあはれ山清某とせん  
 小立遊会記の五  
 まくともあはれと  
 考や喧けん  
 たかひの法  
 方と覚てうて  
 かるて悉く捕縛る  
 一且麻見清孫士族  
 して代探へいん  
 警署發せつとあ  
 らはし中系未外  
 教名後探せしと

信者も必らば西の氏の  
 刺客をお連ある  
 まじとて捕縛  
 せしむるに  
 差支拂同よ及び  
 つねを判官のにせと  
 再台才一と  
 小人と煽動ありぬ  
 〇者のそり伴の電  
 頼救通その筋一  
 運せしむるに  
 先道傍犯者のそり

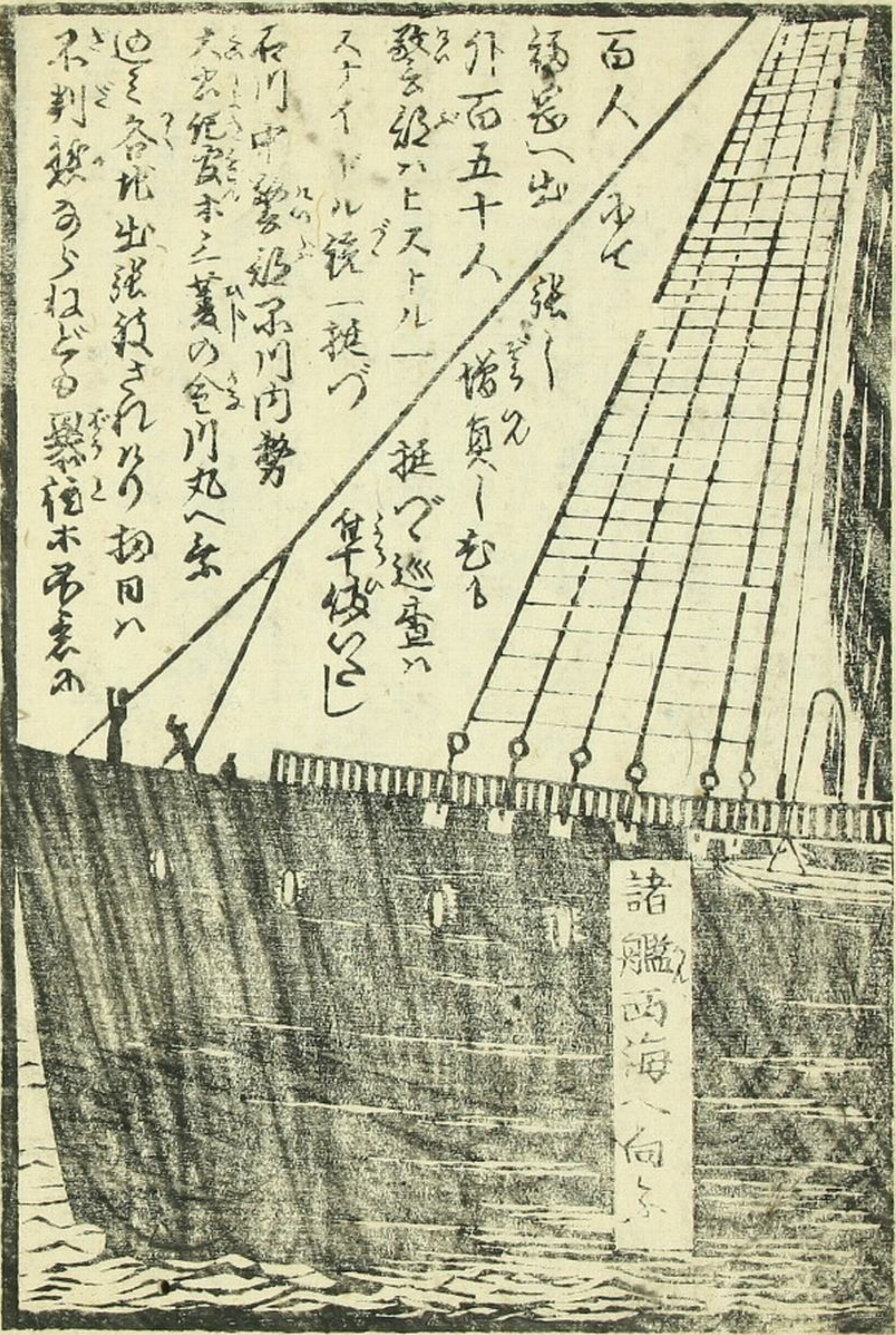


川畑  
 大坂右の面

巡查二百名率い長儀  
 の圍めし紳士  
 一等大警  
 同く二百人よそ  
 然か(増)△



暴徒等縣廳と闘ふ



諸艦西海へ向ふ  
 百人  
 外百五十人  
 致を彼ハヒストル一  
 スナイドル後一挺づ  
 半挺づ  
 石川中勢退不川内勢  
 大久保友木三葉の金川丸へ  
 ひと各出強致されたり  
 不判然るはねども

線麻之礼入一友貞救名小多と負一線麻と  
 行在石達一并五号の巾着告小線麻  
 糞糞友全線麻の件記載されたり  
 慮況るらん又一説は麻見海線麻に罹夫一化線  
 より麻見海線麻に罹夫一化線  
 せしとりの○されば飛津陸軍中依いを後中尉と云ふ  
 去る十日出帆され濃陸軍中依い西京へ出張あり大久保  
 肉勢々の十三日午後三時の流をよて横濱小洲へ出帆  
 玄武丸小の西京へ出帆せし中島後友音尾陸軍中尉大島陸軍  
 少将いを隊と率ひ玄武丸に乘組む大島の四知事山内君徳本  
 四知事細川君とも士族勅揺致さるるや四知事山内君徳本

